

日本被団協ノーベル平和賞受賞に寄せて

私たちは、日本被団協のノーベル平和賞受賞を心から嬉しく思い、大きな勇気を受け取っています。被爆の実相を証言し、核廃絶と平和のために活動してきた全ての被爆者の皆様に、敬意と祝福を表します。

今回の受賞では、自らの体験を語ることを通じて「地球上から核兵器はなくさなければならない」と訴えてきた被爆者の活動が世界に認められました。私たちは、この被爆者の訴えを胸に刻み、核兵器のない世界に向けた歩みを続けていく必要があります。

ヒロシマ・ナガサキの惨劇を繰り返してはならない。核戦争を二度と繰り返さないための唯一の方法は核兵器の廃絶である――被爆者と世界の市民が力を合わせて作ったのが2021年に発効した「核兵器禁止条約」です。全ての国がこの条約に参加し、核兵器のない世界を生きることが被爆者の悲願です。

だからこそ、日本政府には、一日も早く核兵器禁止条約に署名・批准することを求めます。そして、来年3月にニューヨークで行われる核兵器禁止条約第3回締約国会議に参加してください。唯一の戦争被爆国である日本には、世界全ての国がこの条約に参加するよう、国際社会に働きかける力と責任があります。

いま、日本の政治に目を向ければ、核共有や非核三原則の見直し、核抑止力の強化があまりにも軽々しく語られています。世界では、各地で戦禍が広がり、核使用のリスクはかつてなく高まっています。核兵器の使用がどのような悲惨な結果を招くのか。それを人生を賭けて語り続けてきた被爆者の声に今一度、真摯に耳を傾けるべき時です。

来年は、広島・長崎への原爆投下から80年を迎えます。被爆者が語ってきた体験をどう未来に伝えていくのか、被爆者の願いを理想で終わらせるのではなく現実にしていくためにはどうすれば良いのか。私たち一人ひとりが問われています。

今回の受賞を機に、私たち「核兵器をなくす日本キャンペーン」は、日本の核兵器禁止条約への参加を必ず実現していくとの決意を新たにしました。核兵器の禁止と廃絶のために、今こそ市民の力を結集し、活動を強化していきます。

被爆者の皆さんの歩みが示しているのは、何があっても諦めない粘り強い非暴力の活動こそが世界を動かしていくということだと思います。私たち市民の手で、必ず、「核兵器のない世界」を実現しましょう。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ」を心に刻んで。

2024年10月12日
核兵器をなくす日本キャンペーン

**核兵器をなくす**
JAPAN CAMPAIGN TO ABOLISH NUCLEAR WEAPONS
日本キャンペーン